

歴史散歩



かいとじゆく 垣内宿

津市を東西に横断する国道165号を伊賀市に向かって西に進むと、青山峠の手前で垣内交差点に至ります。この交差点を右折し垣内川に沿ってしばらく進んだところに垣内宿があります。

奈良と伊勢を結ぶ街道の一つである初瀬街道は、峠の名前をとって「青山越え」と呼ばれたり、麓にある村の名前から「阿保越え」「小倭越え」と呼ばれたりしていました。そして、青山峠の東の麓にある垣内宿は、峠を越える英気を養うため、また峠を越えてきた旅の疲れを癒やすために欠くことのできない宿場でした。垣内宿には、旅籠以外にも飛脚屋や火薬を扱う家などもあったといわれています。

天正3(1575)年に薩摩の戦国大名の島津家久が初瀬街道の垣内を通して参宮した記録がありますが、垣内宿がいつ頃形成されたのか定かではありません。ただ、江戸時代の地誌である「勢陽五鈴遺響」によると、17世紀半ばごろには問屋が設けられるなど、この頃すでに宿場としての機能を果たしていたと考えられています。

また、明和9(1772)年に執筆された「菅笠日記」には、本居宣長が青山峠を越えて吉野に向かった際に垣内宿を通った記録があるほか、文化5(1808)年には伊能忠敬が初瀬街道のこの辺

りを測量したことが伝えられています。

現在、街道としての役目は国道165号に移っていますが、30戸以上の屋号があったことが知られています。当時の面影を残そうと、中にはのれんや表札が掲げられている町屋があるほか、傍らには常夜灯や里程標などもあり、伊勢参宮でにぎわった当時をうかがい知ることができます。一度、垣内宿のまち並みを散策してみたいはいかがでしょうか。



里程標



のれんの掛かる町屋



垣内宿の町並み



おわび 広報津6月16日号11ページに掲載しました「歴史散歩145 香良洲道の道標」の地図中、香良洲橋の通行止め期間に誤りがありました。正しくは「2022年3月末(予定)まで」です。おわびして訂正します。